

### 第17回 運転ボランティアの気持ち ②

#### ボランティアでもプロフェッション

前号では「ステップ福岡」の運転ボランティア北口菊男さんと森勝紀さんのお話をご紹介しました。送迎活動は大変だ、というのがボランティアの本音のようです。それはお二人が真摯に活動に取り組んでいるからこそなのでしょう。しかし、ではどうしてその大変な活動を長く続けることができるのでしょうか。

「ステップ福岡」のコーディネーター落合律子さんは、運転ボランティアを「ある種の“プロ”」だと言います。例えば前回ご紹介の森さんは、引き受けた送迎をやり遂げることに、またそれを継続することを自身に強く課しています。自主性が基本のボランティア活動には、必ずここまでやりとげねばならない、という絶対的な到達点が定められているわけではありません。そこがボランティアとプロフェッションとの違いといえます。にもかかわらず、森さんの気構えは“プロ”さながらです。この送迎活動に対する責任感と使命感が、森さんの長きにわたる活動の原動力のようです。

#### 運転ボランティアは誰でも出来る？

落合さんは、日々運転ボランティアの“プロ意識”を感じています。「ボランティアさんたちは、誇りをもって活動してらっしゃいます。だから、例えばちょっと忙しそうなおボランティアさんから担当する送迎の回数を減らしたりすると、その方は自分が否定されたみたいにお大変がっかりされるんですよ」と、落合さん。しかし、すべての

人が強い使命感をもって活動に臨めるとは限りません。落合さんは、「ステップ福岡」に運転ボランティアをしないと申し出る人があった場合、まず活動の内容を大変さも含めて説明することにしています。そうすると、「私には無理」と言ってボランティアを辞退する人が少なからずいるそうです。

「私たちのボランティア送迎は、献身的な精神をお持ちの方々に支えられています。でもそんな方々に頼ってばかりの活動は、いつか続けられなくなる日が来るのかもしれないね」そう言うと、落合さんは少し寂しそうな顔をしました。

#### 事務所はボラの“心のよりどころ”

「ステップ福岡」の事務所にはひっきりなしに運転ボランティアが訪れ、しばし落合さんや仲間たちのおしゃべりに興じます。一見ありふれた光景ですが、このひとは運転ボランティアにとって大切なコミュニケーションの時間です。

運転ボランティアは基本的に一人で活動するため、例えば活動中に不安を感じるようなことがあっても、その場で他のボランティアに相談というわけにはいきません。そのためボランティアにとって、コーディネーターや仲間とふれあえる唯一の場所である事務所は、事務手続きを行う場所以上の意味を持ちます。事務所はボランティアの“心のよりどころ”でもあるのです。

次回は…

運転ボランティアの気持ち ③